

倉石・日中学院とわが人生 —1960年代に中国語を学んで—

講師 蘆山健介先生

元日中学院専任講師・元早稲田大学教員

開催日時 2024年7月13日(土)13時～15時

蘆山健介先生は1945年中国北京市で生まれ、翌年天津より帰国。早稲田大学在学中の1966年に倉石中国語講習会で中国語を学びました。1970年代に日中学院の専任講師として活躍され、1980年代に遼寧大学、北京国際関係学院等で日本語專家を歴任し、その後、北京大学で中国語を研究されました。帰国後、早稲田大学で教鞭を執られました。

倉石中国語講習会時代には、創立15周年記念行事や講習会の解散式、「善隣学生会館事件」に遭遇し、善隣学生会館の教室が使用できない状況下で、固定した教室のない分散授業を経験されました。また、ベトナム反戦運動、中国の文化大革命、入管反対闘争、70年安保など、激動の時代の中で中国語を学ぶ意義を問い続けました。

1972年、日中国交正常化がなされ、日中関係が転機を迎えましたが、折しも倉石先生が病に臥し、「日中学院崩壊説」が流布される中、日中学院専任講師となり学院を支えました。その後、藤堂先生が学院長に就任し学院の新たな時代を迎え、学院の訪中団団長として中国を訪問、中国日本語教師訪日代表団の招聘など、中国との交流や学院の発展のために寄与されました。

当日は当時の日中関係や学院の状況、藤堂先生とのエピソードなどを交え、戦後の民間中国語教育の埋もれた歴史を語っていただきます。

皆様のご参加をお待ちしています。

場所 日中学院 302・303.教室
会費 200円 当日会場でお支払
ください
申込方法 お電話かメールで
お申し込み込みください
電話 03-3814-3591
e-mail info@rizhong.org



善隣学生会館入口 1966.6